情報提供書の作成・提出にあたっての注意事項

* + - * 情報提供書はMS-Word形式で電子メールに添付して提出してください。
* 情報提供書は、記載例に沿って記入してください。
* 記載項目は、削除・追加しないでください。（青色文字で記載されている注意事項等は削除してください。）
* 記載の内容が判読しやすい字体とし、大きさは９ポイントを基本としてください。
* 情報提供書の下中央にページ番号を入れてください。

＜提出先＞

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

国際部　新革新グループ宛

〒212-8554　神奈川県川崎市幸区大宮町1310　ミューザ川崎セントラルタワー18階

送信先メールアドレス： shinkakushin@ml.nedo.go.jp

＜電子メールの記入例＞

送信先メールアドレス： shinkakushin@ml.nedo.go.jp

【メール件名】RFI（所属機関名／氏名）研究開発テーマ名

＊所属機関名及び研究開発テーマ名は簡潔な略称名で表記ください。

（メール本文の記入例）

ＮＥＤＯ　国際部　新革新グループ　宛

情報提供依頼（RFI：Request for Information）に対して、添付ファイルのとおり情報提供書を提出します。

添付ファイルの内訳

１）研究開発に関する情報提供書（ｗｏｒｄ）

２）情報項目ファイル（ｅｘｃｅｌ）

**※本情報提供書については、秘密保持の義務を遵守した上で、公文書等の管理に関する法律に基づく行政文書の管理に関するガイドラインに沿い定められた関係規程により、厳重な管理の下、一定期間保存します。ただし、事業を適切に実施するため、主務官庁である経済産業省に情報を共有することがあります。また、当機構における研究開発の実施等に当たり、(\*)の一部又は全部を公開することがあります。**

**※当機構から、必要に応じて追加情報を確認することがあります。**

**情報提供書（RFI）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ①研究開発テーマ名(\*) | 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇の国際共同研究開発*（例：○○の解決を目的とした革新的な○○技術の国際共同研究開発）* | 提出日 |
| 2020年　　月　　日 |
| ②研究の内容（解決すべき技術的な課題と解決手段）(\*) | 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇*「クリーンエネルギー分野における革新的技術の国際共同研究開発事業」において、どのような社会的課題やニーズに対応しているのか、どのような技術的な課題を設定するのか、その課題を解決するためにどのような革新的な技術・システムを創出するのか（解決手段）を論理的に1000文字以内で記述してください。その際、①　内外の動向、②　革新性、独創性、③　従来技術に対する優位性（国際的な位置づけや競合技術との比較等）を含めてください。なお、革新性については、解決手段が、短期的技術課題を解決するものではなく、2030年以降に実用化を目指すインパクトのあるチャレンジであることや、内外の動向を踏まえて世界トップレベルの研究開発であることなどを記載ください。**また、「革新的環境イノベーション戦略 (令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定) 」（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tougou-innovation/pdf/kankyousenryaku2020.pdf）における該当分野も記述に含めてください。* |
| ③-1想定される海外共同研究先（国・地域名と機関名） | 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇国○○○○○○○○研究所 |
| ③-2国際共同研究の意義・メリット(\*) | 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇*国際共同研究が必要な理由（国内研究だけで成果をあげることが成し得ない理由、国際共同研究の意義等）、④-1で記載した海外共同研究先の有する技術の優位性や研究実績を踏まえた選定理由を600字以内で説明してください。* |
| ③-3当該研究分野における相手国側の政策・戦略等プログラム | *当該研究分野における相手国側の政策・戦略や、海外共同研究先が参画（予定）するファンディングプログラム等があれば記載ください（該当する場合のみ、300文字以内）。* |
| ④想定される国際共同研究実施体制 | *国際共同研究開発を実施するに当たり、①想定される研究実施体制（④－１の相手国側研究機関等含む）及び役割分担、②研究開発期間、③必要経費概算（○億○千万円／研究開発期間）について、可能な範囲で記入してください。あくまでも現時点での想定で構いません。* |
| ⑤2030年以降の実用化に向けて想定されるシナリオと社会実装のイメージ・インパクト | 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇*2030年以降の実用化に向け、研究から実用化までに想定している道筋、実用化した場合のインパクト（環境へのインパクト、経済的効果、将来の我が国の産業競争力強化や新産業創出に結びつく研究開発の長期的構想等）について、600文字以内で記述してください。* |
| 温室効果ガス削減効果（CO2トン換算） | *日本国内または世界全体における温室効果ガス削減効果のポテンシャル（○○トン／年）について、簡易的なものでよいので、その根拠とともにご記載お願いします（300文字以内）。* |
| ⑥研究開発領域（該当番号を選択） | １．エネルギー分野①太陽光、②風力・海洋、③バイオマス、④熱利用、⑤燃料電池、⑥水素、⑦省エネルギー、⑧スマートコミュニティ、⑨蓄電池、⑩その他２．環境分野①環境化学、②カーボンリサイクル、③その他３．産業技術分野①材料・部材、②バイオテクノロジー、③電子・情報通信、④その他 |
| ⑦提案者 | 機関名（法人名）*○○○研究所／○○大学等* |
| （連絡先）所属部署*○○○開発本部／○○学部*役職名*○○○○○○*氏　名*○○　○○*住　所*〒　　　　○○県○○市○○１－２－３*ＴＥＬ*○○○○－○○○○－○○○○*E-mail*○○○○@○○○.○○.○○*所属機関URL*https://○○.○○.○○.* |

* **①~⑦までの項目をフォントサイズ9ptとして2ページ以内で記載してください。**

|  |
| --- |
| *図、写真、グラフ等を利用して、この情報提供書の研究の背景や実施内容、国内および海外機関との実施体制やわかりやすく1ページでまとめてください。**＊パワーポイントの資料等を適宜貼り付けて頂いても結構です* |